

読書を通して  
みんながひとつに。



## 「教養のまち—神石高原町」を宣言

**8月を町の読書月間  
子ども読書推進計画  
の策定も**

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、より深く生きていく力を身に付けていくうえで大切なものです。言いかえれば、読書は教養を身に付けていくそのものです。

町では、本年度から読書による「教養のまち—神石高原町」を宣言し、全ての町民のみなさんに読書に親しんでいただき、読書を通してコミュニケーションづくり、夢の持てる町づくりをめざします。

このため、子どもの読書週間（4月23日～5月12日）、読書週間（10月27日～11月9日）のほか、8月を「神石高原町読書月間」として独自に定め、全町の読書運動を展開します。また、子どもを対象とした「子ども読書推進計画の策定」や啓発活動なども、関係機関との連携を図り推進します。

## 地域公共交通協議会が 開催されました

三月十八日、第一回神石高原町地域公共交通協議会が開催されました。この協議会は、町・住民・バス事業者・タクシー事業者・広島県・中国運輸局などから選ばれた十一名の委員で構成され、町の公共交通体系をより効果的なものに改善するため「公平性・効率性・利便性」をキーワードに、スクールバスやおでかけタクシー、路線バス、タクシーを含めた公共交通のマスタープラン「地域公共交通総合連携計画」を今年度中に策定する予定です。



## 真新しい認定コースでグラウンド・ゴルフ



日本グラウンド・ゴルフ協会の認定コースとなった仙養ヶ原ふれあいの里で三月二十三日、グラウンド・ゴルフ交歓大会が開催されました。あいにくの小雨模様にもかかわらず、県内外から集まった六百余名が賑やかにプレー。選手たちは、協会関係者が「自然の起伏に富み面白い」と絶賛する認定コースを楽しんでいました。仙養ヶ原ふれあいの里の山元支配人は「地元の愛好家にも利用していただきながら、都市部との交流も図りたい」と期待を込めています。



## 星降る高原に響く、 春を告げる箏の音

四月三日、子ども箏クラブ（高蓋）の児童たちが、ケアハウス星降る高原（小島）を訪れ、箏の演奏を披露しました。曲は、「チューリップ」や「千の風になつて」など六曲。アンコールの声にも応えていました。演奏後には、地元のお茶会の皆さんから、抹茶とお菓子が振る舞われ、耳にも、口にも楽しい会になったようです。入居者のお年寄りも、「毎年来てもらっていて、これを聴くと春が来たなという感じがします」と喜んでおられました。



## 福柁川で大物釣れる!!

第五回福柁川マス釣り大会が四月六日、草木地域の福柁川で行われ、町内外から集まったおおよそ三百人の参加者が、やわらかな春の日差しを浴びながらマスやアマゴを次々に釣り上げていきました。中には一・五キロもある大きなマスを釣り上げた小学生もあり、大会実行委員会代表の岡崎武志さん（草木）は、「川掃除なども大変だが、都市と農村との交流も図れた」と満足げでした。

また、会場近くの福寿草の里では、一面に咲いた黄色の福寿草や水仙が、訪れた観光客の目を楽しませていました。

